

ソリューション名

FortiEDR

SCSKと実現するマルウェア対策

誤検知が多い

正規のファイルやアプリケーションを誤って検知・検出してしまい業務効率が低下

隔離や駆除ができない

デバイスの隔離やマルウェアの駆除まではできず、人の手による分析や介入、MDRを同時に利用する必要がある

検知されたアラートへの対応方法がわからない

正規のファイルやアプリケーションを誤って検知・検出してしまい業務効率が低下

FortiEDR

エンドポイントの可視化、分析、保護、修復をリアルタイムで実行

FortiEDR 概要

準備

検知

分析

封込

根絶

復旧

FortiEDRは検知だけでなく、準備から復旧まで対応

侵入前		発見&予測	アプリケーションの可視化やデバイスコントロール
		予防	カーネルベースでの保護と機械学習による次世代AV
侵入後		検知と無効化	侵害をリアルタイムに停止、不審な通信をブロック
		対応と調査/修復	プレイブックの実装、自動的な対処と修復

侵入前(実行時)フェーズ

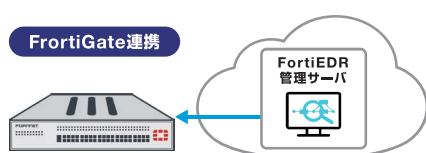
発見 & 予測(Predict)

- アプリケーションの脆弱性を自動で評価
- リスクベースのプロアクティブポリシー/仮想パッチ
- 攻撃対象領域の削減に貢献

予防

- 機械学習/カーネルベースのアンチウイルス
- 繰続的に更新されるクラウドデータベース

FortiGate連携



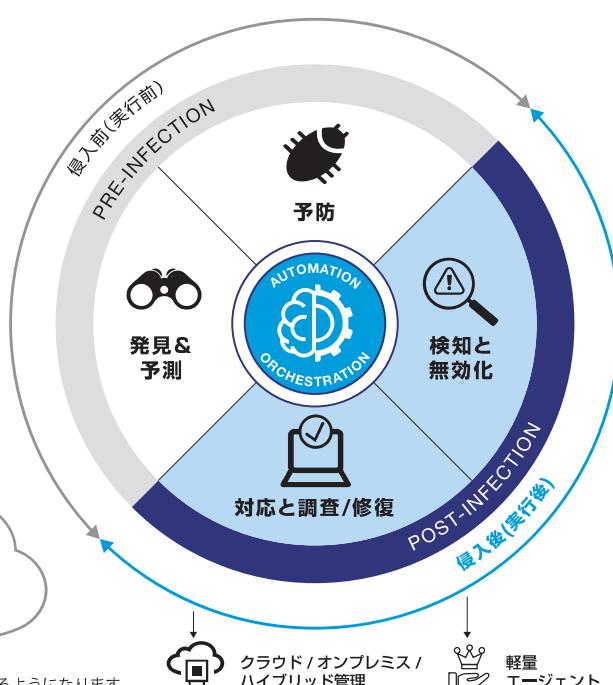
侵入後(実行後)フェーズ

検知 & 無効化(DEFUSE)

- ふるまいベースの検知
- 悪意のある動きを自動/リアルタイムでブロック
- データの不正転送や感染の横展開、C&Cへの通信も見つけて自動/リアルタイムで遮断
- ファイルシステムへのアクセスを拒否 – ランサムウェアによる暗号化やレジストリの改ざんを自動で修復

対応と調査/修復

- イベントの自動選別(Auto-Triage)
- デバイスグループや脅威種別に基づいたカスタマイズ可能なプレイブックを自動実行
- 自動対処・修復(ユーザ通知、プロセス切断、デバイス分離、ファイル削除、悪意のある変更の戻し、等々)



FortiEDRで検知された不審なIPアドレスの情報をFortiGateに共有してFortiGateで直ちにブロックできるようになります。

クラウド / オンプレミス / ハイブリッド管理

軽量 エージェント